



齊藤 由美子 議員



古河市こどもの居場所ネットワーク「とまりぎ」支援の推進について

問 子どもを取りまく環境は大きく変化しており、家庭や学校以外に安心して過ごせる第3の居場所の重要性が高まっているが、①「とまりぎ」の居場所、運営団体活動について、②ボランティア人材について、③新規立ち上げ支援について伺う。

答 ①令和8年4月末現在で居場所数は23カ所、団体数は24団体である。こども食堂の活動

では、各団体の得意分野を生かした活動が行われている。活動状況は、団体の実情によって週1回や月1回などである。②居場所の運営団体で活動している人は全てボランティアであり、希望者と居場所運営者とのマッチング支援も行っている。応援会員として個人が7人、団体が7団体参加しており、資金提供やボランティア等で協力いただいている。③補助金を交付しており、令和7年度の実績では、新規にこどもの居場所を立ち上げた団体が3団体あった。



ひきこもり当事者を支える家族への支援について

問 近年ひきこもりは、若者だけでなく長期化、高齢化が進み、その本人を支える家族も大きな負担を抱えているが、①市内の「ひきこもり」の実態把握について、②ケアラー状態にある家族が抱え込むケースへの支援、相談体制の充実について伺う。

答 ①過去3年間の相談件数は、令和5年度29件、令和6年度36件、令和7年度33件であった。②重層的支援体制整備事業により、ひきこもりの支援機関と高齢者サポートセンター、地域包括支援センターが連携して、高齢の親とひきこもりの子どもの両方をサポートしている。



立川 徹 議員



学校施設の地域開放と適正な管理運営について

問 ①教職員の負担や安全管理上の懸念、学校現場の不安、②過去の学校施設破損件数と対応状況、③騒音や路上駐車等の苦情件数、以上について伺う。

答 ①校門の閉め忘れ、体育館の窓の未施錠、電気の消し忘れなどの懸念が上がっている。②令和5年度7件、令和6年度2件、令和7年度は4件となっている。修繕については全て利用

者で対応いただいた。③令和5年度1件、令和6年度1件、令和7年度3件、令和8年度は5月31日現在で2件である。

大堤地区の新たなまちづくりと地域活性化について

問 ①地域未来投資促進法を活用した大堤地区開発について、目的と期待される経済効果、将来像について、②雇用創出や交流人口の増加、地域活性化にどのようにつながると考えるのか、③国道354号をはじめとする周辺道路の渋滞対策および交通インフラ整備について、④今後の事業スケジュールと市民への情報発信について、以上を伺う。

答 ①文化、産業、商業の交流拠点を整備し、地域産業の好循環

を生み出したい。②（仮称）古河市新公会堂の整備や大型商業施設の誘致により、相当数な雇用や広域的な集客が見込まれ、大堤地区周辺への波及効果を期待している。③国道354号から国道4号までの延伸化を整備することで、渋滞緩和を図りたい。④6月1日に審査委員会を設置し、秋頃の公募開始に向け準備を進めている。大堤地区開発に当たり、周辺住民向けの説明会を7月末頃に開催予定である。

